

## JA自己改革推進レポート（JA鳥取西部）4月号

### （1）「夏ネギ省力化へ トンネル支柱打込機実演」

3月20日、境港市の県園芸試験場弓浜砂丘地分場で白ネギ省力化機械の実演会を開き、生産者や行政、JA職員など約30人が参加した。

実演会では夏ネギのトンネル支柱の打ち込みや、藤木農機製作所のトンネルマルチ打込機「うち丸」を実演。人手による支柱の打ち込み作業は、非常に労力が掛かり腰への負担も大きいですが、「うち丸」は一連の作業を簡単に行える。

しかし、実用化には課題も残り、同JA管内の白ネギ栽培は、畝の間隔が「うち丸」の規格より狭いため、実際の作業において現時点での導入は難しく、生産者の意見を聞きながら、改良へつなげていく予定。

参加した生産者の1人は、「一番大変な打ち込み作業を機械化できれば楽になる。今後の実用化に向けて課題が解決できれば大きな省力化につながる」と期待を寄せていた。



### （2）「クラスター事業を活用した繁殖牛舎竣工式」

4月3日、西伯郡南部町で繁殖牛舎の竣工式を執り行った。繁殖牛舎は、延べ床面積428平方メートルの鉄骨平屋建てで、畜産クラスター協議会が実施する「畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業」を活用し、畜産の生産基盤を確保と地域の畜産の収益性向上と発展を目的に新築された。同施設を利用する恩田畜産は従来肥育が中心だったが、今後は繁殖を増頭強化し、経営の安定と生産の効率化を図っていく。

この繁殖牛舎の建設を機に、西部管内の和牛農家がクラスター事業などを活用し、鳥取和牛の増頭に繋がっていくことが期待される。

